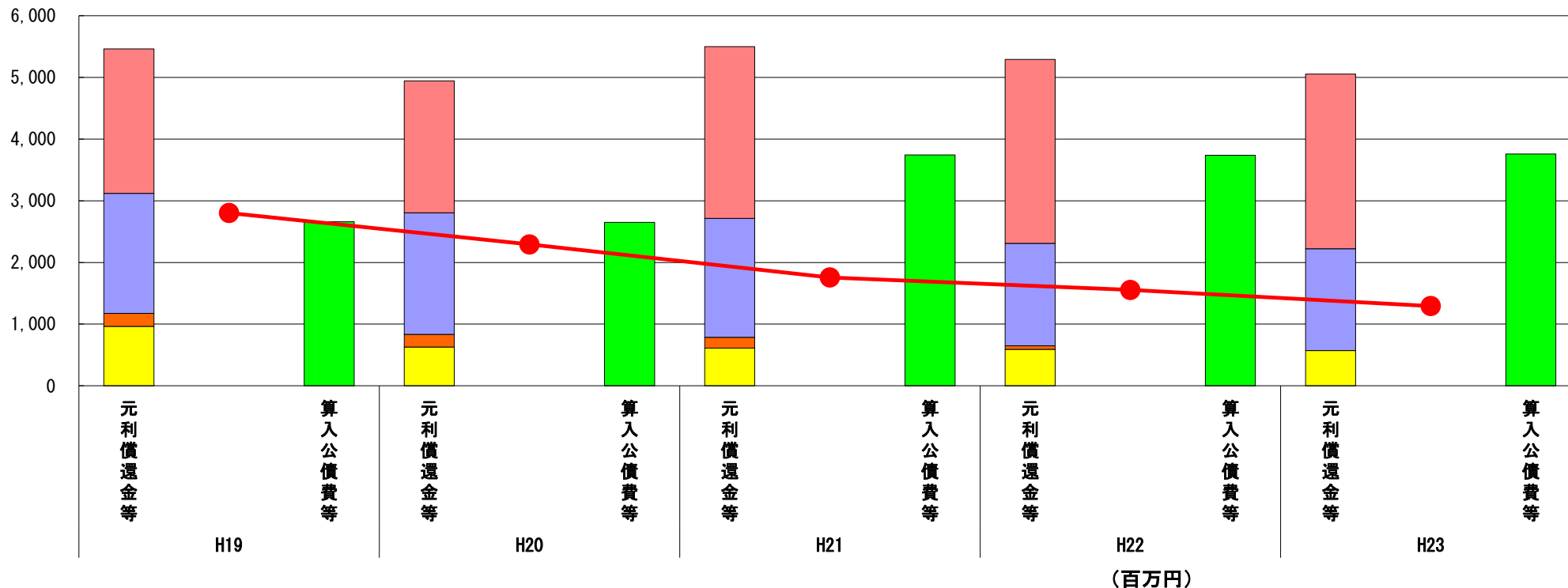


(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

愛知県東海市

(百万円)



分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
元利償還金等 (A)	元利償還金		2,343	2,138	2,785	2,981	2,830
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,946	1,971	1,928	1,662	1,653
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		209	205	175	58	0
	債務負担行為に基づく支出額		965	629	612	591	570
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		2,660	2,651	3,743	3,738	3,759
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		2,803	2,292	1,757	1,554	1,294

分析欄

実質公債費比率の分子については、元利償還金が前年比約1.5億円減少、組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等が皆減となったことにより約0.6億円減少し、元利償還金等(A)全体としては約2.4億円の減少となった。そのため、算入公債費等(B)の値はほぼ横ばいであったため、実質公債費比率の分子は約2.6億円の減少となった。今後は借入利率の見直し等を行い、元利償還金の圧縮に努める。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。